

土曜日だからできる活動

～新たな一面を発見～

尾道さつき作業所 はせがわ ゆいか
長谷川 由佳

尾道さつき作業所では、昨年度から第3土曜日を開所日としています。新型コロナウイルスの流行で旅行や行事の中止、活動が制限されることが続いているようですが、感染対策をしながら、平日より少ない20人ほどでゆったりと、土曜日だからこそできる活動を行っています。

これまでに行ってきた主な活動は、向島方面へのドライブや散策。大根やじゃがいもなどの野菜収穫体験。ミニ夏祭りやお楽しみ会。普段より工程が多く、じっくり取り組めるクッキング。ツリー作りなど季節に合わせた創作活動です。参加する利用者さんからは「毎回楽しみにしている」「楽しかったよ、ありがとう」「今度はこんな活動をしてみたい」など、うれしい声をたくさんいただきます。

また、具材を混ぜるのが上手なこと、作った作品を見せ合うときの発表が上手なことなど利用者さんの新たな一面を見ることができ、職員も活動を楽しんでいます。

これからも、利用者さんがさまざまなことを経験でき、「来てよかった!」と思えるような活動を企画していきます。



▲収穫したじゃがいもでクッキング!



▲きれいに丸くなったジャガイモ餅

陽だまり荘移転

すだちの家 さわ ゆうき
澤 佑宜

陽だまり荘は2002年4月から地域の空き家を借用し、障害者のグループホームとして開設されました。しかし、建物の老朽化が進み今年2月に移転しました。移転先の住まいも、とてもゆったりとした家庭的な雰囲気です。今後もなじみの地域で利用者さんに満足していただけるサービスを提供できるよう努めていきます。



▲陽だまり荘の外観

特別養護老人ホーム星の里では、
現在2名の外国人実習生が
勤務しています。
おふたりの活躍については
次号以降で!

to be
continued

寄付者一覧

(2021年9月～2021年12月 順不同・敬称略)

- <寄付金> 医療法人ささき小児科医院 理事長 佐々木伸孝
尾道パイロットクラブ 会長 田頭京子 永正寺
府中地区労働者福祉協議会 風早明 山口威一郎 匿名3名
- <寄付物品> 尾道サンホーム家族会 延廣利之 山下修史 岩本光平 末宗孝彦

編集後記

私事ですが…今年、本厄を迎えました…!周りの方から、厄払いは節分までに前厄・後厄の年も行った方が良い、長いものを身に付けると良いなど、さまざまな情報をいただきました。「小言は大事」の言葉を胸に、細かなところにもしっかり気を配りながら、日々を過ごしたいと思います。 Y.S

さつき

第73号
令和4年3月

SATSUKI

発行 社会福祉法人
尾道さつき会

広島県尾道市久保町1786番地
TEL (0848) 37-7272
FAX (0848) 37-9610
http://www.satukikai.com
E-mail:hoshinosato@satukikai.com



年始の恒例行事となっているあいあいの初詣。子どもたちは白い息を吐きながら、近くにある浦島神社へお参りに行きました。

小さな手を合わせ、目を閉じて拝む子どもたち。どんな願いをしているのでしょうか。コロナ禍であっても、「笑顔いっぱい素敵な年になりますように…」そして、「みんなの願いがかないますように…」。

児童発達支援センターあいあい とうやま ひとみ
当山 瞳

73号の
topics

- にしざこの家
- シリーズ ~JOY CHANGE~
- オンラインでつながる支援の輪
- 焼き芋会
- 土曜日だからできる活動
- 陽だまり荘移転

■法人本部・公益分野 ■高齢者分野 ■障害児・者分野 ■シリーズ

● 今では野菜作りの役割を担っています ●



野菜の世話も
まかせて



素敵な笑顔が見られます

星の里・にしごの家 岡田 杏子

小規模多機能の強みは、同じ職員が訪問や通いサービスに関われることや、本人や家族の状況、生活習慣に応じて、利用時間を柔軟に変更できる事です。

利用当初「家から出たくない」と言われる利用者さんがいました。家族の話では、家の近くの畑以外には、外出をしないとのことで、家から出ないことを心配していました。

顔を覚えてもらいやすいように、自宅に訪問する職員を限定しました。顔なじみの関係を作っていく中で、野菜作りや花に関心があることを知りました。まず、施設の敷地内のプランターに植えた野菜を見に来てもらうだけの15分間程度の利用からスタートしました。本人のペースで職員が関りを維持していった結果、にしごの家での滞在時間が増えていきました。利用当初は、施設内に入るだけで緊張した表情をしていましたが、今では挨拶をただけでも笑顔を見せてくれるようになりました。

星の里・にしごの家小規模多機能型居宅介護事業所の 取り組み

● 多職種協働でかなった希望 ●

星の里・にしごの家 岩井 祥

にしごの家小規模多機能では、利用者さんのやりたいことや目標とすることが達成できるように日々支援を行っています。

脳梗塞により自宅での生活が難しくなった利用者さんは、利用開始当初から「一度でいいから自宅に帰りたい」という希望がありました。自宅に戻るには、尾道特有の狭い坂道や石段を登る必要があります。また利用当初から、体調が崩れやすく入退院を繰り返していました。体調管理の為に、主治医、訪問看護と連携し密な情報共有を行い、少しずつ体調が良くなり、ついに一時帰宅することができました。

自宅付近の石段は、お孫さんがおんぶ紐を使って上りました。昔話に花が咲いて家族での良い時間を過ごすことができました。自宅では仏壇に手を合わせ「お父さん帰ってきたよ」と涙ぐみながら話しかけていました。その方の生活や想いに寄り添い支援を行うことが私たちの仕事の魅力だと改めて考える機会になりました。これからも、寄り添った支援を行っていくように多職種協働で支援を行っていきます。



孫に背負われ
石段を上げる姿



自宅前で記念撮影

異業種から転職してきた職員や、福祉・医療系の学部外から入職してきた職員を紹介します。

シリーズ JOY CHANGE たのしく転職

星の里小規模多機能型居宅介護事業所 丸田 保子

Q1 前職は何をしていましたか？

以前は服飾関係の仕事をしており、縫製や販売をしていました。縫製の仕事を辞めてからも、洋裁を学びたいという人に、その人の作りたいものがつくれるようにデザインの希望や使いやすさも考えながら、自宅で洋裁を教えることもありました。子育てがひと段落し、福祉の勉強をして病院で介護職員として勤務した経験もあります。

ボランティア活動にもいろいろと参加しており、さつき会で働き始めてからも若者を支援する団体でボランティア活動をしています。

Q2 さつき会に入職した経緯を教えてください。

友人に紹介されたのがきっかけで、自身の健康のためを思い、働き始めました。主に清掃業務をしながら、利用者さんともかかわっています。勤続して4年になりますが、もともと片付けや掃除が好きだったので、業務も楽しくできており、自分に向いていると思います。

Q3 前職の経験が生かされていることは？

長年ボランティア活動をしてきました。人に対して親切にできる、優しく思いやりを持って接することができるのは、今までの経験からだと感じています。

Q4 働いてみてさつき会の良さとは？

とにかく人がすばらしい。法人自体もしっかりとしています。職員のみなさんが優しく親切で、働きやすい職場です。仕事があるからこそ、今もこうして元気に働けているのだと思います。



▲隅々までピカピカに

オンラインでつながる支援の輪

尾道市障害者サポートセンターはな・はな 坂本 奈央

尾道市自立支援協議会は、障害福祉サービス事業所や関係機関が地域課題の整理、社会資源の開発に取り組んでおり、尾道市障害者サポートセンターはな・はなが事務局をしています。自立支援協議会は児童部会、生活支援部会など複数の部会があります。今まで各部会や行事は集合して開催していましたが、コロナ禍のためオンラインで実施しています。事務局や参加者も最初は戸惑いましたが、回数を重ねることで慣れ、これまで積み上げてきたつながりや取り組みが途切れることなく、協議や情報提供を行っています。



▲「仕事と暮らしの福祉事業所説明会」の様子

焼き芋会 ～コロナ渦でも、日常生活に笑顔と楽しみを～

むかいしま荘 はしば かずき 橋羽 一樹

むかいしま荘では、コロナ渦でも、日常生活に楽しみをもってもらえるよう焼き芋会を行いました。

今年度最初の施設行事ということもあり、参加者は前日からソワソワ。始まると「焦げんように作ってね」「この大きいのは私のじゃけえね!」と待ちきれない様子でした。できあがった焼き芋を食べた利用者さんは「これ熱々で美味しいわ」「食べ過ぎたらオナラ出るね～」と笑顔が溢れていました。

今後もコロナ感染には十分に注意し、利用者さんが少しでもこの状況を楽しく笑顔で過ごせるようにしていきたいと思っています。



ホクホク～♪



美味しい～♪